

ジャパンメディカルリーグに期待 「医療界の希望の灯に」

茨城県土浦市長・安藤真理子さん

茨城県土浦市といえば、高校野球界の“名將”で、2020年11月に逝去した木内幸男・元常総学院高監督の出身地。同市では世代を問わず、数多くの野球大会が開かれ、全国屈指のスポーツどころとして知られています。医療分野にも関わりが深い安藤真理子市長に、22年に開催される「ジャパンメディカルリーグ軟式野球大会」への想いなどを伺いました。

——土浦市は青少年から大人まで野球大会が盛んです。

◆10～11月、J:COMスタジアム土浦をメイン会場に開催された、市長杯争奪少年軟式野球大会には市内外から76チームが参加しました。今夏予定していた土浦市民野球大会は新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置の適用に伴い、残念ながら中止となりましたが、昨年までで74回開かれた伝統ある大会です。

——野球以外のスポーツでは「かすみがうらマラソン」が全国的な知名度を誇ります。

◆22年4月17日に開催予定の「第32回かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン2022」は、エントリー受付が12月15日から始まりました。新型コロナのため2年連続で中止となっただけに、多くの市民ランナーの皆さんが待ち望んでいることでしょう。

——ところで、市長は介護福祉士・ケアマネジャーの資格をお持ちです。

◆もともと、介護の仕事に就きたかったのですが、子供が幼かったことなどを理由に採用されませんでした。「自分のように働きたくても、採用されない女性がいるのではないか」という思いから、女性が働きやすいヘルパーの会社を起業しました。

——「ジャパンメディカルリーグ軟式野球大会」の開催目的は医療従事者に心身の疲れを癒していただき、明日への英気を養ってもらうことです。

◆コロナ対応の最前線に立つ医療関係者の皆さんの献身的な働きには頭が下がります。スポーツを通じて、医療界に希望の灯が輝くような大会になれば良いですね。「夢は強く願えば必ずかなう」が私の信条です。ともに手を携えて逆境を乗り越えましょう。

安藤真理子 1960年、土浦市出身。訪問介護、サービス付き高齢者住宅など福祉事業の運営に携わった後、2007年の同市議選で初当選。市議を2期務めた後、県議(2期)を経て、19年11月の市長選で初当選した。同市政初の女性市長で、同県唯一の女性首長。